

会 議 録（要旨）

会議の名称	平成26年度 第2回 小平市都市計画マスタープラン見直し検討委員会
開催日時	平成27年3月10日（火）午後3時から午後5時まで
開催場所	小平市健康福祉事務センター 2階 第3・4会議室
議長	松本委員長
出席者	松本委員長、羽貝副委員長、市川(健)委員、市川(徹)委員、出竿委員、菅野委員、窪田委員、鈴木委員、西村委員、樋口委員、
欠席者	なし
事務局職員	津嶋都市開発部長、奈良まちづくり課長、島田まちづくり課長補佐、鹿島まちづくり課主任
議題(案件)	① 報告事項 市民アンケート調査結果について ② 報告事項 「まちづくりカフェ」の実施について ③ 報告事項 市民モニターの実施について ④ 検討事項 小平市都市計画マスタープラン全体構想 構想見直し案について
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 第2回小平市都市計画マスタープラン見直し検討委員会 議題内容 ・資料2 小平市都市計画マスタープラン改定のための市民アンケート調査結果 ・資料3 まちづくりカフェ・ニュースVol.1～3 ・資料4 第1回市民モニター調査票 ・資料5 小平市都市計画マスタープラン全体構想 構想見直し案 ・資料6 まちづくりの重点項目の考え方(案)

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
委員長	<p>1 開会</p> <p>本日は、まず報告事項があって、その後に検討事項となっています。委員会は2回目ですが、本日が今年度最後なので、検討事項にある構成見直し案を見ていただいて、ご意見をいただきます。</p> <p>この場で構成見直し案を決めるというわけではなく、むしろ、来年度にこのことを市民と話し合っていくための方向性を共有できれば良いと思っています。別に決を採るということではなくて、来年度の話し合いの方向性が見えれば良いという位置付けになっています。</p> <p>3月のお忙しい時期にお集まりいただきありがとうございます。 それでは、資料確認からお願いします。</p>
事務局	(配布資料を確認。)
委員長	<p>2 報告事項</p> <p>(1) 市民アンケート調査結果について</p> <p>それでは「市民アンケート調査結果について」の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>本日は、資料1「第2回小平市都市計画マスタープラン見直し検討委員会議題内容」に沿って、資料を確認しながらご説明いたします。</p> <p>最初に、報告事項の「(1) 市民アンケート調査結果について」です。 「【資料2】小平市都市計画マスタープラン改定のための市民アンケート調査結果」をご覧ください。</p> <p>「(1) 対象者」として、送付件数は2,000件。市内に住所を有する18歳以上の市民とし、10歳ごとの年代別人口割合に応じた無作為抽出としました。「(2) 送付日程」として、発送日は平成26年10月30日(木)から、概ね1か月の期間を設けまして、平成26年12月1日(月)を締切としました。</p> <p>「(3) アンケート結果」としまして、回収数597件、回収率29.9%でしたが、白票が3件ございましたので、有効票は594件、回収率29.7%といたしました。</p> <p>それでは、市民アンケート調査結果の内容を見ていきますが、分量がかなり多くなっておりますので、中心的な内容となっている問3についてご説明</p>

委員長	<p>いたします。48、49ページをお開きください。</p> <p>問3は、現在の都市計画マスタープランに記載されている内容について、満足度や今後の重要度を質問しています。その回答を点数化して、縦軸に満足度、横軸に重要度を取り、各項目の点数を座標で示しました。満足度・重要度の平均を軸とし、各項目の方向性を、「維持分野」、「改善分野」、「重点維持分野」、「重点改善分野」の4つの分野で示しています。実際に、表に座標を落としたものが49ページとなりますが、よりわかりやすく示している表が50ページとなっております。これは、現在の都市計画マスタープランに記載されている各項目が、どの分野に位置しているか示しております。また、後ほどご説明いたします、市民懇談会「まちづくりカフェ」では、この表を参考に意見交換をいたしました。そこでは、主に、右上の「重点維持分野」と右下の「重点改善分野」について話し合われました。</p> <p>次に、アンケート調査につきまして、51ページの表を例に、ご注意くださいいただきたいことがございます。これは、先ほどの問3について、年代別に分析した表となっております。この表では、濃い色ほど満足度が高く、薄い色ほど満足度が低いということになりますが、年代ごとのサンプル数にかなりの差があるため、色の濃さだけでは、正確に傾向を表していない場合があります。これにつきましては、地域別の分析につきましても、同様の傾向がございますのでご注意ください。</p> <p>次に、今回の市民アンケート調査の特徴を示すものとしまして、78ページから114ページをご覧ください。こちらは、自由意見欄の内容となっております。アンケートの最後に自由記述欄を設けまして、記載していただいた意見をまとめたものです。ご意見は、内容に応じた項目ごとに分けて並べているので、内容によって複数の項目に重複しているものは再掲しているため、かなりの分量となっております。いずれにしても、今回のアンケート調査では、かなり多くの自由意見があったと言えます。</p> <p>市民アンケート調査に関するご説明は以上となります。</p> <p>これを一つずつ見ると、気になるところ等、いろいろと質問がありそうですが、本日のところは持ち帰って見ていただいて、次の議論の参考にしていただければと思います。</p> <p>P78にあるように、256名の方が自由意見を書かれ、全体的には590件という非常に多くの意見が出ていますので、ある意味では、市に期待することが大きいと言えますが、一方では、それだけご意見をお持ちの方が多いという受け止め方もできます。その中には個別に対応できることもありますし、ここで議論していく時の参考にするべきこともあると思いますので、お持ち帰りいただいて、よくご覧いただければと思います。</p> <p>また、先ほど説明のあったP48～49は、P121～122の「小平市全体のまちづ</p>
-----	--

事務局

くりについてうかがいます」という質問の30項目について満足度と重要度に○を付けていただいた結果を基に作成されているので、P49のグラフで重要度が高く、満足度の低いところについて、この委員会で考えなければならないところではないかと思えます。そこに何が書かれているかについては、後ほど出てくると思いますが、これを見ながら「まちづくりカフェ」の報告を伺いたいと思えます。

(2) 「まちづくりカフェ」の実施について

報告事項の2点目、「まちづくりカフェ」の実施についてです。資料3-1から3-3をご覧ください。資料3-1から3-3は、「まちづくりカフェ・ニュース」のVol.1からVol.3となっております。Vol.1、Vol.2はすでに送付いたしました。Vol.3は、本日初めてお示しするものです。

最初に、日程及び会場についてです。第1回目は平成27年1月25日（日）。第2回目は平成27年2月14日（土）。第3回目は平成27年2月28日（土）。それぞれ午前9時30分から正午まで実施いたしました。会場は、全て小平市中央公民館2階の学習室4となっております。なお、2回目と3回目には、G委員にもご参加いただきました。

対象者は、市民アンケート調査の回答者の内、市民懇談会への参加を希望した方41名ですが、市民モニターに登録した方67名にも、「まちづくりカフェ」のご案内を送付いたしましたところ、市民モニター登録者からも3名が参加いたしました。

参加者数として、第1回目は25名。内訳は男性15名、女性10名。第2回目は27名。男性18名、女性9名。第3回目は22名。男性11名、女11名でございました。

参加者実数、つまり一度でも参加した方の数は、36名となっております。年代別内訳として、20代が2名、30代が1名、40代が5名、50代が9名、60代が10名、70代が9名でした。

それでは、「まちづくりカフェ・ニュース」を見ながら、「まちづくりカフェ」の実施内容をご説明いたします。まずVol.1からご説明いたします。1月25日（土）に実施しました第1回目は25名の参加がありました。冒頭、まちづくりプランナーの野口和雄さんに、「市民が主役のまちづくり」と題した15分程度のミニ講演会を開催していただきました。その中で、「都市計画マスタープランとは、一言で言うとまちづくりの方向性を示すもので、言い方を変えれば『羅針盤』のようなものである。ただ、実際には、まちづくりは福祉や教育など多岐にわたるので、土地利用や都市基盤整備などの都市計画に限ったものではなく、分野を超えて連携する必要がある。そのため、まちづくりの主役である市民のみなさんが日頃、思っている事、考えている事を伺う場を設けることになった。」というお話がありました。

ミニ講演会の後は、さきほどご説明しました、アンケート調査の間3を参考にワークショップ形式の意見交換を行いました。ワークショップのグループを決めるにあたっては、誕生日順に一例に並んでいただき、人数が均等になるようにグループ分けしました。そのため、グループの名前は、「早春グループ」、「さくらグループ」、「ひまわりグループ」、「どん栗グループ」というように、季節にまつわる名前になりました。そして、最後には、各グループで話した内容について、代表の方に発表をしていただきました。

続いて、Vol.2です。2月14日（土）の午前9時から正午まで、中央公民館で実施いたしました。この日の特徴としましては、「ワールドカフェ」というワークショップの形式を取り入れました。「ワールドカフェ」は、最初のグループには一人だけ残って、他の方は別のグループに移って意見交換をし、最後に元のグループに戻ってくるものです。別のテーマについて話したり、同じテーマでもいろいろな他の意見を聞いたりすることができます。この日も最後に発表を行いました。

続いて、Vol.3です。2月28日（土）の午前9時から正午まで、中央公民館で実施いたしました。この日も冒頭、まちづくりプランナーの野口和雄さんに、「意見交換をはじめるにあたって」ということで、5分程度のお話をいただきました。ここでは、「仕事柄いろいろなまちに足を運ぶ中で、『良いと感じるまち』と『悪いと感じるまち』がある。その違いは、まちを愛している人がいるかどうかである。そして、良いまちには共感が溢れている。そんな共感が溢れるまちのヒントについて考えてみましょう。」という内容のお話がありました。その後の意見交換では、いろいろなまちづくりがある中で、市がやるべきことはもちろんあるが、市民がやるべきまちづくりもある。市民はどのようなことができるかということについて話し合いました。その意見交換の中で出された意見について、本日の議題にも関係する内容の一部をご紹介します。2ページの真ん中に、早春グループで話し合われた、生活拠点のあり方を考えるにあたっての駅ごとのイメージについて記載があります。小川駅周辺は、東側はブリヂストン、病院、福祉施設などがある。福祉は小平の看板である。小平駅周辺は、「小平」を冠しているのに名前負けしている。花小金井駅周辺は、小平市民の憧れである。うらやましい。一橋学園駅周辺は、花小金井を地味にした感じである。鷹の台駅周辺は、学生街であるが、学生が集う場所がない。新小平駅・青梅街道駅周辺は、市役所、JA、病院はあるが、他のイメージがない。という発表がありました。発表の後に、もう一度、野口さんからお話をいただいて、最後に集合写真を撮って、全3回の「まちづくりカフェ」を終了いたしました。

「まちづくりカフェ」に関する報告は以上です。

委員長

1ヶ月くらいの短い間に随分と良い話し合いが持たれたようです。G委員

G委員	<p>が出席されたそうなので、感想があれば伺いたいと思います。</p> <p>◆ 働く女性の増加で、地元での買い物が減少</p> <p>2回ほど参加させていただきました。若い人は少なかったのですが、自分たちの住んでいるまちに対する思いがあるので、活発な議論が行われました。それに私は関心があったので聞く側に回っていました。</p> <p>印象的だったのは、40代くらいの方が「自分の最寄り駅は青梅街道駅だが、買い物は地元で一切しない」と言われたことです。特に女性はそうではないかと思います。働きに出ている方が多くて、職場から帰る途中にどこか大きな駅で降りて、買い物をして、そのまま家に帰ってしまうので、地元にお金を落とすことはありません。そのような方が多いために、地元の商店街はなかなか売上が伸びないわけですが、それに対して「買いたいものがないのではなくて、買う時間がない」という意見を聞いて納得しました。この例は、今の社会情勢、働き方を表していると思います。</p> <p>また、全体的に聞いていて、皆、非常に熱心に意見を出されていたので、すべてをマスタープランに反映することはできませんが、このような結果が出ているので、最低限、個別的なところはサマライズしてマスタープランに盛り込めたら良いと感じました。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。報告だけでなく、感想があればお願いします。</p>
事務局	<p>◆ 「まちづくりカフェ」の様子について</p> <p>一つ、大事なことを言い忘れてましたが、「まちづくりカフェ」という名前ですので、カフェのような雰囲気です。コーヒーやお茶、お菓子を出しています。第2回は、ちょうどバレンタインデーだったので、チョコレートを出すなど、話しやすい雰囲気を演出していますし、音楽なども邪魔にならない程度にかけたりして、雰囲気づくりはしています。</p> <p>1回に20人程度という人数については、いろいろと捉え方があると思いますが、その場にいた感想としては、非常に活気があって盛り上がりがありました。部屋の大きさによると思いますが、この部屋くらいの大きさで、4グループが活発な議論をされていたので、担当者としては満足のいく内容だったと思います。</p>
委員長	<p>意見についてはどうですか。</p>
事務局	<p>4グループで話されているので、それぞれを全部聞くことはできませんが、最終日に一つのグループに休みの人が多かったので、そこに入って議論をさせてもらったところ、商店街の話がされていて、先ほどG委員も言われ</p>

事務局	<p>ていた話と同じ内容が出ていました。つまり、買うところがないとか、商店街に閉まっている店がたくさんあるということで、そのようなところを別の形で活用したまちづくりができるのではないかという意見も出ました。</p> <p>全部で3回開催しましたが、1回目は通常で言うところの要求型で、耳の痛い話が多く出ました。</p> <p>2回目からは、ワールドカフェを行った経緯もあって、自分たちと違う意見を持つ人もいるということで、考え方が「役所だけに頼んでもダメではないか」「自分たちでできることはした方がいいのではないか」という意見も少しずつ出てきました。</p> <p>3回目も同じようなテーマで話し合いましたが、その時は「自分たちでするにはどうすればいいのか」という話が重点的で「市はそれを応援してくれればいいのか」という話に変わっていったのが、今までにないことでした。ワークショップで、そのような形で意見が変わっていくのを見たのは初めてで、そこに非常に感心しました。</p>
委員長	<p>市民の側が提案する気持ちになったものを、うまく市が受け止めて、何か達成感を感じられる形にできると良いのではないかと思います。</p>
委員長	<p>(3) 市民モニターの実施について</p> <p>それでは、続いて「市民モニターの実施」について説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、市民モニターの実施についてご報告いたします。資料1の裏面と資料4をご覧ください。資料1の裏面、「3 市民モニターの実施について」です。今回は、まだ結果は出ておりませんので、実施の報告のみとなります。「(1) 対象者」としましては、市民アンケート調査の際に、市民モニターに登録した市民65名です。市民モニター登録者は、68名ですが、「まちづくりカフェ」に3名が参加いたしましたので、その方を除く65名を対象といたしました。「(2) 送付日程」としましては、平成27年2月12日(木)に発送し、締切日を2月23日(月)といたしました。現在のところ、回収数は17件となっており、やや少ない状況ですが、とても貴重なご意見をいただいております。続いて、市民モニターの内容についてご説明いたします。資料4「市民モニター調査票」をご覧ください。左のページにある表は、アンケート調査の間3の結果をまとめたマトリックスです。この表から関心のある項目を選んでいただき、右ページにその理由を記載していただく作りになっております。最後に、「ちょっと質問コーナー」を設けております。これは、直接都市計画マスタープランに関係する内容ではありませんが、まちづくりに関心を持っていただくための工夫として取り入れたもので</p>

委員長	<p>す。</p> <p>市民モニターについてのご報告は以上です。</p> <p>回収が少ないのは困りますが、モニターになって調査票が送られてきたものの、少し難しくて答えにくかったのではないかと思います。「3つを選んだ理由を書きなさい」と言われると、すぐには書けない感じがするので、もう少し簡単な形で答えられるようにした方が良いと思います。この形式で今後も何度か行うのであれば、対策を考えなければならないと思います。</p>
委員長	<p>◆ 「まちづくりカフェ」参加者について</p> <p>それから、「まちづくりカフェ」に参加された方たちは、その後はどうなるのでしょうか。</p>
事務局	<p>今年度は第3回で終了しましたが、来年度以降も「まちづくりカフェ」の参加者には、引き続きこのような場を設けて参加していただく予定です。また、来年度も市民アンケート調査を行いますので、そこでも同じような形で参加者を募って、人数を増やした形で継続し、最後の都市計画マスタープラン改定までお付き合いいただければと考えています。</p>
委員長	<p>今までのところで、ご意見、ご質問はありませんか。まだ始めたところなので、アイデアがあれば、発言していただけると事務局で検討されると思います。</p>
H委員	<p>◆ 市民モニター調査の課題について</p> <p>やはり、このモニターでは難しいのではないかという感じがします。「まちづくりカフェ」に参加された方であれば書けると思いますが、アンケートの後にいきなり「モニターです」と言ってこれが来ると難しいと思います。モニターの方は、アンケートの結果については詳しく説明されていないのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>アンケートの概略版のようなものは一緒に送付していますが、確かに回収率の低い原因は、難しかったためではないかという印象は持っています。</p>
H委員	<p>「まちづくりカフェ」に参加された方はじっくり考えられたので、カフェに出られた方に答えていただくと違ってくるかも知れませんが、モニターでいきなりこれが来ると難しいかも知れません。そのようなところもあって、回収率も上がらないのではないかという気がします。</p>

事務局	<p>この「まちづくりカフェ」の第3回の最後に、問3について、全く同じものを答えていただきました。その結果についてはまだここでは報告できませんが、最初に郵送されて来た時に答えた結果から、「まちづくりカフェ」に出てどのように変化したかということも重要だと思っていますので、結果が出次第、ご報告できればと思っています。</p>
委員長	<p>これまで、第1回目の委員会の後の動きについて報告していただきましたが、報告事項は以上です。</p>
	<p>3 検討事項 小平市都市計画マスタープラン全体構想 構想見直し案について</p>
委員長	<p>それでは、本日の本題に入りたいと思います。</p> <p>検討事項として、「小平市都市計画マスタープラン全体構想」についてですが、最初にお話したように、本日はこれを見ていただきながら、来年度、本格的にマスタープランを検討していくために方向性を見出すことができれば、あるいは、議論できればと思っています。</p>
事務局	<p>それでは議論をしていただく前に資料説明をさせていただきます。資料5、6をご覧ください。最初は「小平市都市計画マスタープラン全体構想の構成の骨子案」と言っていましたが、構成の見直しについてご説明します。ここで直ちに内容を固めてしまうものではなく、今後、検討していただくための最初の議論と考えていただきたいと思います。</p> <p>まず資料5ですが、左側は現行都市計画マスタープランの全体構想、右側は見直し案としてお示しするものです。見直し案の「1 都市計画マスタープランとは」について、位置づけ及び性格は、市民等提案型まちづくり条例に基づく地区まちづくりのガイドラインとしての役割を位置づけるか検討したいと思います。つまり、都市計画マスタープランを市民にも使いやすいものにしてはどうかということです。改定の背景と目的は、第1回検討委員会で示した見直しの視点についての議論を参考としていきます。</p> <p>次に「2 めざすべき将来の都市像」です。まちづくりの理念は、現行都市計画マスタープランを継承します。将来の都市像とまちづくりの目標は、まちづくりの理念を踏まえて、より「空間像」に落とし込んだ記載をすることを検討します。まちづくりの重点項目は、現行の「まちづくりの方向」を踏まえて、改めてこれからの方向性を議論します。また、市が抱える特徴、課題を踏まえつつ、今後、重点的に取り組む必要がある項目を検討します。さらに、まちづくりカフェ等の市民意見も参考にしながら、市民とともに取り組むべきまちづくりの重点項目として記載するか検討いたします。なお、</p>

2-4の将来の都市構造と2-5のまちづくりの重点項目につきましては、後ほど改めてご説明いたします。

2-4と2-5に関する議論を受けて、落とし込んだものが「3 部門別整備方針」となります。見直し案としましては、「3-1 土地利用の方針」、「3-2 交通ネットワークの整備方針」、「3-3 水とみどりのまちづくりの方針」、「3-4 良好な住まいづくりの方針」、「3-5 安心・安全なまちづくりの方針」、「3-6 個性ある（小平らしい）まちづくりの方針」として、項目を設けました。部門別整備方針は、時点修正に伴うタイトルの変更・修正や、まちづくりの重点項目と関連する新たな方針の設定をすることを考えております。例えば、現行都市計画マスタープランでは、「防災・防犯のまちづくり」としていたものは「安心・安全なまちづくり」と変更しております。

それでは、2-4の将来の都市構造と2-5のまちづくりの重点項目についてご議論していただくにあたって、考え方のイメージをまとめましたので、資料6「まちづくりの重点項目の考え方（案）」をご覧ください。上段の青い枠は、まちづくりを取り巻く社会潮流について、参考となるキーワードを記載しております。まず、国の動向としましては、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現ということで、都市機能の集約化、低炭素まちづくりの推進などが挙げられます。また、インフラの長寿命化、まち・ひと・しごと創生などもございます。次に、東京都の動向です。前回の見直し検討委員会でもご説明いたしました、東京都の都市計画区域マスタープランの内容となっております。東京圏全体の視点に立った「環状メガロポリス構造」の構築、コンパクトな市街地への再編などがございます。右欄は、市の方向性として、小平市の第三次長期総合計画の内容となっております。

続いて、左側中段の「小平市都市計画マスタープラン見直しの視点」です。こちらは、前回の見直し検討委員会で検討した内容について記載しております。次に、「市民の意識」につきましては、上段は、先ほどの市民アンケート調査の問3をまとめたマトリックスの内、「重点維持分野」と「重点改善分野」に位置づけられた項目を掲載しております。下段は、「まちづくりカフェ」のご意見の中で、まちづくりの重点項目を検討する上で参考となるものを一部掲載しております。

これらのことを踏まえて、小平市のまちづくりの重点項目としてまとめたものが右下の赤枠になります。今後の小平市のまちづくりを推進していくにあたって、次の4つのテーマに力点を置きながら取り組む必要があると考えました。「①コンパクトなまちづくり」では、医療・福祉施設、商業施設などが拠点に集約されたまちとして、次のようなキーワードが挙げられます。「②人口減少・高齢化社会に対応したまちづくり」では、現在、社会を取り巻く今日的な課題に対応したまちとして、次のようなキーワードが挙げられ

	<p>ます。「③個性を活かしたまちづくり」では、小平市の特徴を活かしたまちづくりとして、次のようキーワードが挙げられます。「④地区主体のまちづくり」では、参加と協働によるまちづくりとして、次のようなキーワードが挙げられます。また、裏面には、現行都市計画マスタープランの「都市構造図」とめざすべき将来の都市像を参考に掲載しております。</p> <p>資料5、資料6のご説明は以上です。</p>
<p>委員長</p>	<p>●「全体構想 構成見直し案」について</p> <p>まず1つは、資料5を見ていただきたいと思いますが、この構成で良いのかという議論があると思います。</p> <p>2つ目に、2-4、2-5のところに囲みで「まちづくりの重点項目のイメージ」がありますが、これが資料6で4つの提案となっています。それで良いのかということについても議論していただきたいと思います。</p> <p>それでは、まず資料5の方から議論したいと思いますが、部門別整備方針の6項目も表現が少し変わっているようですが、いかがでしょうか。</p>
<p>委員長</p>	<p>◆ 「個性あるまちづくりの方針」について</p> <p>「個性あるまちづくりの方針」が気になるのですが、他の都市計画マスタープランでは、あまりこのような形で取り上げられていません。具体的に何を行われるつもりでこの方針がつけられ、そして、実際に何をしたのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>現行の都市計画マスタープランのP42～43に「個性あるまちづくりの方針」がありますが、その中に「景観形成の推進」「ユニバーサルデザインに配慮した都市施設の実現」「活力ある産業などを活かしたまちづくり」、それから大学が多いので「産学官連携や地域施設資源などと取り組むまちづくり」と書いています。</p> <p>「景観形成の推進」については、例えば、小平市の景観に関する条例が作られたというような結果はありません。</p> <p>「ユニバーサルデザインに配慮した都市施設の実現」は、福祉のまちづくり条約が作成されたという経緯があります。</p> <p>都市計画に関わることではないかもしれませんが、「産学官連携」では、ソフトの面で、今、活発に行われているブルーベリーリーグという、大学ごとの連携で小平市のまちづくりに参画する取組があります。</p>
<p>事務局</p>	<p>補足しますと、「景観形成の推進」では「景観行政団体になってはどうか」という意見が市民や委員から出ていますが、市としては、地区計画や、いろいろな制度の上に景観の網を被せると、実際の手続きが複雑になります</p>

<p>委員長</p>	<p>ので、今のところは考えていません。</p> <p>地区計画は、現在、開発が起きたところについては、地区計画がかけられるのであればかけていく方向で取り組んでいます。景観については、風致地区には規制がありますが、風致地区と同様に派手ではない色合いに統一してほしいという地区計画をかけています。</p> <p>「ユニバーサルデザインに配慮した都市施設の実現」については、道路等をつくる場合は、構造的に必ずバリアフリー化をするようにしています。小平市の場合は福祉のまちづくり条例を独自に持っていますので、福祉のまちづくり条例に基づいた形で、入口やトイレなどはユニバーサルデザインで、誰もが使いやすい形のデザインにしています。</p> <p>3つ目の「活力ある産業などを活かしたまちづくり」については、グリーンロードが以前から小平市の売りであり、グリーンロード推進協議会等もありますので、その活用と年間を通してイベント等を行っています。</p> <p>少し弱いのが「商店街の魅力を増す」という部分で、現在、空き店舗が増えており、市としても活性化の手立てが見えていないところがあります。</p> <p>大学連携については、先ほど説明のあったブルーベリーリーグの他に、武蔵野美術大学と交流関係があるので、彫刻展などを連携して開催しています。</p> <p>その実績が、今後見直し案で言えば、「個性ある(小平らしい)まちづくりの方針」のところに反映されて、継続なり発展していくという話になるとかと思えます。</p> <p>構成については、ご意見はございませんか。</p>
<p>G委員</p>	<p>◆ 部門別整備方針のタイトルについて</p> <p>部門別整備方針のタイトルは、現行のタイトルより分かりやすくなりました。「交通ネットワークの整備方針」「水とみどりのまちづくりの方針」「良好な住まいづくりの方針」「安全・安心なまちづくりの方針」等、今、世の中で語られている言葉にフィットしているので、非常に良いのではないかと感じました。中身についてはこれからだと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>本日は、このような構成で進めるという提案で、中身はこれからだと思います。それでは、このような形で進めていただくということでよろしいでしょうか。</p>
<p>委員長</p>	<p>◆ 「安心・安全」の表記について</p> <p>若干、私が気になっているのは安全と安心をセットにしていることです。完全な安全ありませんが、安心はなかなか難しいと思います。100%安全</p>

	<p>とは言い切れませんし、安心を提供するというのはなかなか難しいと思いますので、安全と安心を並べて書くのが良いのかどうか、防災のことを考えると、少し心配になります。</p>
委員長	<p>◆ 小平市民等提案型まちづくり条例について 小平市民等提案型まちづくり条例は、市民に定着しているのでしょうか。</p>
事務局	<p>アンケート調査の中で「市民等提案型まちづくり条例を知っていますか」と質問していますが、その知っている人の割合が非常に低いので、あまり周知されていないという現実があります。</p>
事務局	<p>「知らない」が66.3%です。</p>
委員長	<p>この中であまりご存じない方はおられますか。</p>
事務局	<p>現行の都市計画マスタープランの実現化方策の中で出されたものが実現したのが提案型まちづくり条例であり、平成22年10月に施行されたものです。</p> <p>ただ、今まで都市計画が、行政側が決めた案を示して、一応、市民の意見を聞く場を設ける形にして、実際は市の計画の通りに進んでいくようなスタイルが多かったのに対し、この条例は、まず市民側から、地域の計画を考えていただいているという内容になっています。</p> <p>もちろん、その中には、取り入れられるものと、取り入れられないものがあり、都市計画として定めてしまうと、法的拘束力を持つものになってしまうので、その前段で建築協定に似た「地区まちづくりルール」という紳士協定のようなものを作ります。まず、市民の皆さんで地域に合ったルールを作ってくださいますが、それについては特に法的拘束力を持たないので、どのようなルールを作るのも皆さんの自由です。そして、そのルールが定着した段階で、それについて一定の拘束力を持つ項目があった方がよいということになれば、法に基づいた手続きをとって、提案されたものとして都市計画に定めることができるというルールです。</p> <p>ただ、都市計画法上は1人でも提案できるようになっていますが、この条例については、まず5人で準備会という団体をつくり、その中で地域に考えを広めていただいて、最終的には10人のグループにならないと地区まちづくり団体の形にはなれません。このように、一つのまとまりをつくるところで一定のハードルがあるので、市としても課題であると認識しています。</p>
委員長	<p>今までに、これで提案されて実現したものはありますか。</p>

事務局	<p>今のところ提案の形での事例はありませんが、市が推進地区を指定して行われた例はあります。これは条例の趣旨とは違って市主導になります。市主導で小川駅西口を推進地区に定めて、市民主体で再開発事業を行っているところに市も支援をしたいという形で条例を使って活動した事例はあります。条例の趣旨に基づく提案の団体は今のところないという状況です。</p>
委員長	<p>つまり、皆さん方が提案をする場合は、5人の団体が必要だということです。</p>
H委員	<p>これを立ち上げようと思ったことがあります。市民はマスタープランの年度に合わせて暮らしているわけではないので、非常に対応が難しい面があります。ある日突然、問題が湧き起って、地域のひと「どうしようか」と考えた時に、その問題の相手が私の場合は大手のデベロッパーの開発でしたが、その事業が進むスピードに対して、提案型のチームをつくって、会議をする形に持っていくのは非常に高いハードルがあります。</p> <p>したがって、マスタープランの周期が皆にうまく浸透して「この地区でまとまってやっつけていこう」ということになれば、私もこのような活動で、自分の地域の周りのひとと一緒に取り組みたいと思います。</p> <p>もう一つ、マスタープランを話し合っていた皆さんからいろいろな問題が出るからこそ、問題が起きた時に市民がうまく動いて、意見を出せて、何とかできるような内容を、どこかに入れることができれば良いと思います。</p>
委員長	<p>多分、市民等提案型まちづくりというのは、問題が起こる前に、普段の生活の中で考えて「将来的にこのようにすればいい」と提案するものであり、具体的に問題が起きた時に対処するには間に合わないと思います。むしろ、いろいろなことが起こることを予防するか、より良くしていくという活動の仕組みなので、言われているような開発への対応等は、法的な問題があって、起きてから対応するのは難しいので、別途、考える必要があるかも知れません。</p> <p>今後、これをガイドラインとして、大事だと位置付けて提案されているので、そういう意味では、もう少し周知徹底をしていただく等、委員の皆さんに理解していただけるように努力しなければならないと思います。</p>
A委員	<p>◆ 「水とみどりのまちづくり方針」について</p> <p>部門別整備方針の中で「水とみどりのまちづくり方針」はどこも皆同じように謳っていると思いますが、特に小平の近辺は水という認識があまりないと思います。まず、川がありませんし、地形は平らで、昔から水らしい水と言えば玉川上水くらいです。それ以外は用水路で、逆に水がなくて困ってい</p>

	<p>るくらいなので、どこの市でも謳っている「水とみどりのまちづくり」という方針を挙げるのはどうなのかなと思います。</p> <p>確かに、水とみどりは必要なものですが、小平の場合はみどりが非常に多いので、みどりをもう少し強調して、例えば、美術大学もあるので「みどりと彫刻のまち小平」と謳って、みどりの中に彫刻を散りばめ、休憩もできるようなまちづくりをしてはどうかと思います。</p> <p>水を強調した時に、積極的に親水水路やいろいろな整備ができるのかというと、小平の場合は特に基の水がないので難しいと思います。玉川上水を親水水路にしようとしても、あれは東京都のものなので小平がどうにかすることは無理な話です。そのような面から、タイトルが各市と違って構わないのではないかなというのが私の考えです。</p>
事務局	<p>一応、石神井川の源流がありますが、ほとんど水がありません。</p>
事務局	<p>一つは用水路です。今、なかまちテラスの北側の用水路を整備して、親水的にしようとしています。逆に言えば、用水路を持っている市は少ないので、細い用水路が多いとは思いますが、それも小平市の一つの資源だという捉え方で取り組んでいます。</p>
委員長	<p>タイトルの文言は考えていただくとして、部門別については、来年また「考えてほしい」という話があるかも知れませんが、本日のところは、この6部門で進めていくという方向にしたいと思います。</p>
委員長	<p>●「まちづくりの重点項目の考え方（案）」について</p> <p>次に、資料6について、先ほど「まちづくりカフェ」でいろいろな意見が出たという話がありましたが、具体的にイメージできないので、「市民の意識」と「まちづくりカフェでの主な意見」のところをご覧いただいて、市民の方はこれをどのように感じるのか、感想をいただきたいと思います。</p>
G委員	<p>◆ 「生活」をキーワードとする提案</p> <p>私は「まちづくりカフェ」に出ましたが、印象としては「住みたいまち」「住んで良かった」「住み続けたい」という方が多いまちだと思います。アンケートにも「生活」という言葉がいくつか出ていますが、「生活」はキーワードとしてマスタープランを考えていかなければならない、大きなテーマだと思います。</p> <p>◆ 大学との連携の必要性について</p> <p>意外だったのは「大学」や「学生」という言葉がかなり出てきたことです。「まちづくりカフェ」に出席されている方も多いのですが、学生との交</p>

	<p>流や、高齢者と学生との交流等は場所がないので、大学をまちづくりに引き込んでどうかという意見が多く出されたのは意外でした。</p>
委員長	<p>◆ 商業エリアに対する取組について</p> <p>商店街についての意見が出ていますが、F委員はご意見ありませんか。</p>
F委員	<p>元々、商業から発展したまちではないのですが、発展させなければならないとは思っています。</p> <p>ただ、資料5の3-6「個性あるまちづくりの方針」の説明で、商店街に対して何か取り組みをされたと言われたと思いますが、何を、どこがどのように変わったのか分からなかったもので、教えていただきたいと思います。</p> <p>もう一つは、安全・安心なまちづくりの関係で、少し前から話題になりつつある防犯カメラの設置の件です。プライバシーの問題で反対している人も多いという問題はあると思いますが、そういうことも盛り込むことができれば良いと思います。</p> <p>商店街に何をしたのかというのは、勉強不足ですので教えていただきたいと思います。</p>
委員長	<p>商店街の方がご存じないということが問題かも知れません。</p>
事務局	<p>課が違うので詳しい内容は説明できませんが、例えば、一橋商店街であれば、以前、シャッターに描かれていた絵を統一的にしようという話があります。また、商店会に対して、店を改装する場合の補助金等の形で盛り上げようとしたが、個人商店が多いので、直接、市が入り込んでいくのはなかなか難しい部分があります。しかし、できれば、商店会自身を活性化したいという意向は持っています。</p> <p>また、空き店舗がかなり増えているので、空き店舗の活用を考えているようですが、活用されていた方自体が手を引いている状態の中に入っていくのはかなり厳しいところがあり、なかなか借り手がいないという状況です。そのような中で、無償か、安い金額かは分かりませんが、大学生が自分の作品やグッズ等売るような店舗が少しずつ出ています。</p> <p>小川駅周辺は商業エリアで、昔は街道筋にかなりの店舗がありましたが、逆に都市計画上の制限がないために、店舗がアパートやマンションに替わりつつあり、店自体がかなり減って、商店街という様相が見られなくなっているという状況です。その中で再開発の話が出ていて、今ある商店街を誘導しながら、再開発の中で回遊性を持たせることにより発展させていきたいと地元の方も考えているので、それに支援しているところです。直接的に、市が商店街に対して何か目立った取組をしているかどうかは把握していないとこ</p>

	<p>ろです。</p>
A委員	<p>小平の場合、商業地域でマンションが建つとしたら、1階部分は商業のテナントにしなければならないというような規制はありますか。</p>
事務局	<p>開発条例上では、今のところ規制はありませんが、改正してそういう規制を入れようという考えはあります。ただ、その商業エリアが活性化していれば、「1階に必ず店舗を入れてください」と言えますが、活性化していないと、逆にマンション事業者から「できない」と言われてしまうので、活性化がキーポイントになるのではないかと思います。</p>
A委員	<p>今まで商業エリアとされていたところで、もう商業が成り立たないようなところは、用途を変えて、建ぺい率も容積率も変わる形にする方が良いのか、今までどおり沿道の1階部分は商業地として頑張っていくのか、その辺りは見極める必要があるのではないかと思います。</p> <p>それから、一橋学園駅を降りて中央通りの左側に、昔、大きな店舗がありました。あそこはどうなるのでしょうか。</p>
F委員	<p>借地権30年の契約が終わったので、マンションになるような話を聞いています。詳しくは地主の方に聞いてください。</p>
A委員	<p>閉店後はダイソーになったり、家具屋になったり、いろいろな店になっていましたが、今は何も使われていません。そういったところが駅の直近にあると寂しい気がしますし、我々が若い頃は、ちょっとした買い物は全部あのスーパーで買っていたのに、なくなってしまったために、否応なしに国分寺へ買い物に行かなければならなくなっています。</p> <p>そういうことから考えますと、まだまだ小平の中には商業に対する需要があるような気がしますので、もう少し商業の面に目を向けて、駅周辺の活性化を図れば何とかなるのではないかと思います。したがって、今後の都市計画マスタープランの中で、商業についてももう少し強く打ち出していたらと感じました。</p>
委員長	<p>なかなか難しいところです。「市民の意識」の最初に「駅周辺の商業地としての形成」が挙げられたり、便利になった方が良いというような意向が挙げられたりしているので、ニーズとしてはあると思いますが、先ほども報告があったように、実際は他の所で買って地元では買わないという状況があるわけです。</p>

F 委員	<p>国分寺に高層ビルができるという話があるので、何か手段を考えなければ一橋学園の商店街は恐らく全滅してしまいます。マンションなどにも提案できればいいのですが。</p> <p>法律を変える等は無理な話だと思いますし、ここはプランなので夢でも構わないと思って話しますと、例えば、個人の財産のことになりますが、30年の契約が終わったというのは正式に聞いたことがあるので、あそこがマンションになるのは嫌だという人はたくさんいます。特に商店街の人たちは訴えると思います。「マンションでもいいのではないか」と言うと、「人が来なくなってしまう」という意見が多くありました。したがって、私は言えませんが、そういったことをしてほしいという意見があると思います。</p>
委員長	<p>駅周辺については、生活拠点という言葉も書いてありますが、生活していくうえで必要なものがあるはずです。</p>
F 委員	<p>前回、H委員が「小平にずっと住もうと思うから、前のマンションに働きかけた」という話を聞いて、驚くとともに、それほど住むまちのことを大事に思っているということで嬉しく思ったので、我々ももっと工夫しなければならないと思っています。</p> <p>特に「市民の意識」の最初に商業が出てきたのは意外です。多分、みどりや環境は満足しているので、不足しているのが商業、買い物だと思います。そうでなければまちが生き残っていけないと訴えているサインではないかと思っ見ています。</p>
副委員長	<p>◆ 部門別整備方針の「参加と協働」「個性あるまちづくり」について</p> <p>資料5の部門別整備方針の3-1～3-6の表現はまだ動く可能性があるという前提で、いくつか質問をさせていただきます。</p> <p>現行のマスタープランの整備方針と比較しますと、表現は多少変わっていますが、基本的には同じ柱が立っています。</p> <p>それで、1つ目の質問は「防災・防犯」が現行では3番目に挙げられていますが、見直し案では5番目になっています。現行の3-4、3-5が見直し案では上に上がって、最後に「個性あるまちづくりの方針」となっています。もちろん、この部門別整備方針は上下関係や優先順位を示すものではなく、基本的に並列だと理解していますが、3番目にあった「防災・防犯」が「安心・安全」と表現を変えて5番目に下がったのは、どのような判断からでしょうか。</p> <p>もう1つは、3-6「個性あるまちづくり方針」です。個人的な意見ですが、3-1～3-5まで、まさに小平らしい取り組みが積み重なって、充実したところで小平の個性が出ると思います。それで「個性ある(小平らしい)まち</p>

	<p>づくりの方針」の内容を見ると、景観や地域コミュニティという言葉が並んでいますが、その中の「参加と協働～」は3-1～3-5までのどの部門にも関わるものだと思いますので、市民の皆さんが実際に関わる場所で生み出されるものを柱にできないかと思いました。</p> <p>都市計画とまちづくりは長期戦なので、大きい項目が5年、10年内で簡単に変わることはあり得ないと思いますが、第3次の長期総合計画を見て「連携と協働」とも整合させて、「参加と協働」を1本の柱にする選択もあるかも知れないと思いました。「水とみどりのまちづくり方針」にも「参加と協働」が出ています。同様に「安心・安全」という言葉も3-4に出てきますが、3-5の見出しにも出ています。このように見ていくと、言葉使いと柱で何を実現しようとするのかということ、もう一段階考えてみたいと思いました。</p> <p>「参加と協働」は、参加の主体が個人、住民の皆さんですし、事業を営んでいる方々の関わりや、商店会・商店街の経営者の方々もおられますし、いろいろな立場の方がいると思いますが、本市にとってかなり大事なのだろうという気がしました。</p>
委員長	<p>確かに、順番が変わっています。</p>
事務局	<p>順番はあまり考えていませんでしたが、ご指摘のとおり、一番上にあるから重要という意味ではありません。むしろ、防災などは敢えて項目立てしなくても、全体に関わる非常に重要なことだと思っています。それはアンケートにも示されており、Iの問1「小平市がどのようなまちになったら良いと思われますか」という質問の結果も、安全・安心が断トツで1位でした。そういう意味からも重要な部分だと思っています。この順番の変更については申し訳ありません。</p> <p>「参加と協働」については、現在の都市計画マスタープランにおいて、参加と協働まちづくりを目指すべきというところからできたのが提案型まちづくり条例です。したがって、今回のマスタープランでは、その方向を明確に打ち出す必要があると思っています。</p> <p>「個性あるまちづくり」については、いろいろとお話をいただいて有り難いと思っています。実は、このような部門別方針で項目立ての中に「個性あるまちづくり」という方針を打ち立てている自治体はそれほどありません。その一方で「個性あるまちづくり」の方針に書かれている内容は、他の項目に位置付けても良いのではないかと思っていますので、「個性あるまちづくり」の方針を残すべきか、無くても構わないかということも、この場で議論していただければと思います。</p>

委員長	<p>「参加と協働」については、「めざすべき将来の都市像」の2-5「まちづくりの重点項目」に書くことだろうと思います。非常に重要な話で、部門別のもっと上に出てくる話ではないかと私は理解しています。</p> <p>3-6「個性あるまちづくり」は良いと思っていますが、部門別とした時に、ここに何が入るのが気になります。他の市の都市計画マスタープランでは、恐らく景観や場合によっては福祉などを取り上げる場所もあると思います。したがって、この「個性ある」という言葉を良いとは思っていますが、他に入らなかったものを並べている感じもするので、これで良いのかと思うわけです。</p> <p>確かに「参加と協働」というキーワードもあると思いますが、先ほど、現行のマスタープランの実施内容を説明していただいたので、その先にあるものとして考える必要があるのではないかと思います。</p>
副委員長	<p>発展形というか、これまでの実績を踏まえた上で、さらにどのように積み上げていくかということだと思いますので、違和感があるということではありませんが、整備方針の具体的なメニューとして、何を重点に行うのかということに尽きると思います。その時に、住民や事業者の皆さんに大いに関わっていただきたいと思っています。</p>
委員長	<p>私が大事だと思うのは「まちづくりカフェでの主な意見」の1番目に「駅が7つもあるが、どこが中心なのか分かりにくい」という意見が出されたことです。確かに、皆、小平という市があることは知っていますが、どういうところなのかイメージしにくいと思います。立川と言われると、立川の駅のイメージや市のシンボル等のイメージが出てくると思いますが、小平というと、平らでみどりがあることは分かるものの、まちとしてのシンボリックなイメージがないと感じていたのが「駅が7つもあるが、どこが中心なのか分かりにくい」という意見となって出てきたと思います。「小平らしさとは何か」という思いがこの言葉には込められていて、そこから「個性ある(小平らしい)まちづくりの方針」につながっているのではないかという気がします。</p>
副委員長	<p>それを明らかにするような方向に持っていくということでしょうか。</p>
B委員	<p>◆ 7つの駅を拠点としたまちづくりについて</p> <p>資料6「まちづくりの重点項目」の①に関係があると思います。小平は非常に駅が多く、それが連携していないことが特徴になっていますが、それなのに「①コンパクトなまちづくり」を謳っているのはどういう意味でしょうか。逆に言うとバランス良く、違った目的を持った駅が7つあって、それぞ</p>

	<p>れが自立してまちができていくというのは、非常に特徴があると思います。それを一つに集約するようなイメージで、コンパクトというものを捉えるのは間違いだと思います。</p> <p>東京23区でいうと例えば北区がそうです。こちらはJRの駅数が多いことが特徴ですが、赤羽や王子が大きいくらいで、他はバラバラです。そういうところをコンパクトにするとはどういうことかという、一つにまとめるということではなくて、それぞれの駅を別々の拠点として、それぞれ特徴ある形でまちづくりをしていくということだと思います。</p> <p>例えば、花小金井は賑わいのある商店街を活かすようなまちづくりをするとか、小平駅についてはあまりよく分かりませんが、有名な霊園がある等、文化的なイメージがありますし、一橋学園駅は教育に特化し、小川駅はブリヂストンの工場の駅です。これらはそれぞれに特徴があるので、先ほどの「個性を活かす」というのは、一つひとつの駅勢圏を特徴ある形で整備していくことだと思います。</p> <p>その時に、それぞれがコンパクトであることは一つの要素ですが、もっと大事なことは自立することだと思います。自立とは、例えば太陽光・太陽熱などの地産のエネルギーを使って、できるだけエネルギーを自給自足することです。そうすることで、平常時はCO₂の削減になりますし、非常時もある程度エネルギーを自給して、水も使えるような、安全・安心なまちづくりができます。安心の部分では、非常時にもエネルギーや水が使えるということが重要だと思いますが、そういうまちにするためには、簡単に「コンパクト」という言葉で言うのではなくて、自立して、それぞれの拠点の特徴を活かせるようなまちづくりをしていくということが必要だと思います。このようなまちを一言でいうと「スマートシティ」という言葉が当てはまると思います。このように①の部分は、拠点をそれぞれ特徴ある形で整備をして、自立して、安全・安心につながるようなまちをつくっていくような方向に持っていったらどうかと思います。</p>
委員長	7つは同じくらいなのでしょうか。
E委員	7つの拠点を1つにするよりも、それぞれが個性を持って、例えば、渋谷辺りが、渋谷、原宿、表参道とそれぞれ雰囲気が違うエリアが近くにあるような感じにしてはどうかと思います。花小金井は賑わいのイメージとか、別のところは学生っぽいとか、そのような感じで発展できるような方向性をこの中に落とし込んでいけば良いのではないかと思います。したがって、私もコンパクトということで無理に1つにするのはどうかと思います。
委員長	1つにするという話ではないと思いますが、7つは結構数がありますね。

E委員	逆に、それが“売り”で良いのではないかと思います。
委員長	先ほど、商業が全滅してしまうという意見がありました。
F委員	<p>国分寺ができると一橋学園は商圈なので影響があると思います。1軒目の丸井ができた時のマーケティングでも一橋学園はメインターゲットでした。しかし、聞いたところでは、1軒できたくらいでは商店街は潰れないそうです。小川の商店街がダメになったのも、目の前にダイエーができたくらいの時は平気でした。スーパーも同じですが、売れている店の周りを、例えば、イオンとヨーカドーとダイエーに囲まれてしまうと、その店がいくら売れていても潰れてしまいます。今度の国分寺の店舗がどうなるのかは分かりませんが、多分、一橋学園は影響が大きいだろうと思います。</p> <p>7つの駅の特徴を活かしたまちで良いと思います。</p>
E委員	一橋学園には、飲食店は多いと思うのですが。
F委員	建設大学や自衛隊、警察学校がありますが、校長の方針として「学校には勉強するために来ているのだから、外で飲食をするな」という校長先生がいると、門限を過ぎたら一切外出できなくなります。よく「強く言ってほしい」と言われますが、誰にどう要望すれば良いのか分かりません。
E委員	商工会とも相談をして、どういうエリアにするのかということをお話しましたが、学生に「どこでも構わないから空き店舗に入って何かしてくれ」というのでは、入ってもらえさえすれば良いという感じになって中途半端になってしまうので、そうではなくて、ブルジョアな空気感や若者のまちというような空気感のあるエリアにできないかと思ってはいました。
副委員長	<p>資料6の③にいろいろとキーワードが挙げられていますが、「都会から一番近いプチ田舎」と発言された方は、積極的に肯定する評価の表現だと思います。近隣では町田も大きな商業施設がありますし、人口的には八王子も大きい等、ライバルがありますが、小平らしい自然など、いろいろと活かした暮らしやすいまちというのは非常に良い目標だと思います。</p> <p>そして、「7つの駅を」というのは、私と同じ発想です。ただ、私は青梅街道駅で降りて、ここへ来るまで線路伝いを歩いてきますが、線路脇の歩道は散歩には適さないと思いました。「みどり」が謳われていますが、確かに冬でも枯れないみどりがあるにしても、冬も咲かせている花々が沿道にあるわけでもないので、何か寂しい気がします。それについては、7つの駅の周</p>

事務局	<p>辺に花を植えて、散歩のできる道にするなどはどうでしょうか。</p> <p>「7つの駅をそれぞれ活かす」というのは、とても良いアイデアだと思います。</p> <p>◆ 「都会から一番近いプチ田舎」について</p> <p>「都会から一番近いプチ田舎」については、F委員が一番詳しいと思います。</p>
F委員	<p>「小平市は観光に適さない」という意見もありましたが、2年くらい前に、小平市観光まちづくり振興プラン策定委員会があり、私も参加していて、水面下ではまだ続いています。</p> <p>私自身は子どもの頃からあまり「田舎」という表現が好きではなかったのですが、小平市と田無市(現西東京市)を分けると、西東京市は比較的都心の文化的で、小平市は地縁が強く、青梅、瑞穂、村山などは親戚が多くて、田舎っぽいのです。それから、都心に近い割にみどりが多く、西武線で帰って来ても、田無の駅を越えると急に暗くなります。少しは明るくなりましたが、まだまだ暗いと思います。</p> <p>そのような状況から、あまり肯定的に「田舎」という言葉を受け入れていなかったのですが、「プチ」が付いたので賛成しようと考えました。小平で生まれ育った人たちは「田舎」に反対していましたが、インパクトがあって良いのではないかということと、差別用語の「田舎」ではないという意味で理解していただければということと、</p> <p>小平は、どちらかというと西多摩文化寄り、JAは東側の裕福なJAと合併できたのでよかったと思います。西東京市がJAと合併するはずはなく、もし、そのようなところと合併していたら大変なことになっているので、JAに関してはうまくいったと思います。</p> <p>小平はゆったりとした文化のまちなので、例えば、若い時から思っていたのは、仕事で使うような大きな封筒が、小平に多い丸ポストには入らないということです。苦情を言いたいのは山々ですが、会社が少なかったので、角2の封筒を入れる人が少なかったのかも知れません。これは勝手な想像ですが、そのために丸ポストが残っていて、余計に田舎っぽいと感じます。</p> <p>したがって、「観光」という言葉も少し違うと感じますが、「田舎」という言葉についてももっと良い表現がないかと思っています。</p>
委員長	<p>昔から住んでいる方がそのよう(田舎)に思っていて、アンケートを見た感じでは、みどりや良い意味での田舎が求められていて良いという感じで書かれている方が多いような印象があります。</p>

F 委員	<p>新しく来た人の方が「田舎らしさ」や「みどり」が好きなようで、ずっと住んでいる人は「田舎と書かれるのは嫌だ」と抵抗しています。</p> <p>引っ越して来た方には、「なぜ、小平に住むのですか」と尋ねています。</p>
E 委員	<p>皆、今の小平が好きなようです。ですから、駅周辺が発展して国分寺のようになるよりは、住みやすいまちのままで、遊び行くのは国分寺や立川、吉祥寺へ行くようなまちづくりを目指すのか、それとも、駅周辺くらいは、そういう賑やかなところをつくるかということになるとおもいます。賑やかになり過ぎると、小平に住もうと思った良さが無くなったという市民が出るかも知れません。</p>
B 委員	<p>多分、住みやすさの大きな理由は、まちが分散している点だと思います。例えば、神奈川県藤沢市は、東海道線の藤沢駅という大きな駅のまわりにまちが集約しているため、日中も道路が渋滞して、それが住みにくさの要因となっていると伺っています。一つ大きな駅があると、そこにいろいろな機能が集中して、ファッションナブルな大きな店なども来るかも知れませんが、それ以上にマイナスに作用することがたくさんあります。</p> <p>小平の場合は、そのような大きな駅はなくて、小さな駅がいくつもあるのが最高の特徴であり、それが住みやすさにつながっていると思います。</p> <p>もう一つは、アンケートにもあったように、昔からの住民と新しい住民がうまく溶けあってお互いを評価していて、良いと思います。私の住んでいる東久留米市もそうですが、少し東京側へ行くと、ほとんど新しい住民だけになって、まちが変貌してしまいます。そうでないところが残っているのが小平市の特徴であり、それが「プチ田舎」ということだと思います。</p>
F 委員	<p>小平市は面積当たりの風致地区が、東京の中で1番目か、2番目に多く、これがまさに景観を守るという意味では財産になっています。これを守ることができれば良いと思います。</p>
副委員長	<p>言葉使いとしては小平独自の定義付けが必要かも知れませんが、「田舎」という言葉を「田園都市」と言い換えると違和感はあるでしょうか。</p>
F 委員	<p>随分と議論をしましたが、今一つしっくりきません。「田園調布」も東京から向こうへ行く時に、急に田園風景が開けたのでそのような名前になっただけのことで、まさに田園があったわけですが、小平は、農地は多くても「田」も「園」もあまりありません。</p> <p>これについては、誰かふさわしい名前を考えてください。</p>

A委員	<p>◆ 拠点分散で住みやすいまちのあり方について</p> <p>防災面でも小平が住みやすいのは、例えば、中央線が止まっても西武線に乗れるし、西武線が止まっても中央線に乗れるし、武蔵野線もあるので、何かがあって歩いて自宅まで帰るとしても、それほど時間がかからないという小平の地形に起因すると思います。そういう面では、都心の人が小平に移り住みたいというのは分かる気がします。(商業地域に)マンションが次々にできて売れているのも、土地が都心よりもそこそこ安くて、そこそこ住みやすいからではないかと思います。買い物に出るとしても、立川、国分寺、吉祥寺などへ行くことができます。</p> <p>ただ、私が小平に住んでいて何とかしてほしいのは飲食です。「あそこへ行けば素晴らしいもの食べられる」という飲食店が小平にあれば教えてほしいと思います。50数年住んでいますが、「あそこへ行けばおいしい」「記念日にはあそこへ行きたい」とい思うような飲食店が少ないような気がします。それをもう少し充実して、中華も、日本食も、洋食も、いろいろなバリエーションの中で食事ができるようになって、散歩しながらでも行けるような良い店があると素晴らしいと思います。その他の点では、本当に住みやすいと思っています。</p>
E委員	その辺りが“売り”で良いと思います。
委員長	<p>住みやすさとか、いろいろな財産があることが核になるので、それは大事にして良いと思います。それにプラスして先んじるものがあればという事だと思います。資料6には重点項目が4つ提案されていますので、来年度は、これを項目として考えていくことになると思います。</p> <p>先ほど、「コンパクト」ではなく「スマートシティ」という話も出ましたし、7つの駅は財産なので、うまく自立してそれぞれがネットワークしていくという提案もありましたが、自立はなかなか難しいですね。</p>
A委員	エネルギーや水の部分はできると思います。
委員長	<p>◆ 高齢化社会の視点から</p> <p>これから高齢者が増えていく中で、駅があつて、国分寺へ行かなくてもそこで日常生活ができるようにするにはある程度のもので必要なので、それが本当はセットであれば良いと思いながら伺っていました。</p> <p>福祉の立場からはどうでしょうか。</p>
C委員	話に出ているように、7つの駅を中心としてまちづくりをしていくのは、非常に小平らしいという感想を持ちます。

	<p>また、市民意識調査のアンケートの中で、バリアフリー化や通行のための整備、公共交通の利便性等のキーワードが出ていますが、これから高齢の方が増えていく中で、そういう方が生きがいを持って生活をしていくには、それらの要素が非常に大きな条件の一つになると思います。したがって、計画の中にそういう視点を、うまく盛り込むことができれば良いと思います。</p>
委員長	<p>まちづくりの重点項目の②に「人口減少・高齢化社会」と書かれていますが、それを小平市の中でどのように考えるのかということです。今、地域包括センターはいくつあるのでしょうか。</p>
C委員	<p>地域包括センターは5ヶ所です。</p>
委員長	<p>7つの駅と言われたので、地域包括センターも7つあれば良いと思ったのですが、高齢者の方々が歩いて行ける身近な範囲で生活できるような形に組み替えることができると良いと思います。</p>
C委員	<p>やはり、まず安全が大事で、安心してまちに出られるような環境でなければ、社会的弱者と言われる方は出て行けません。したがって、そういう視点を取り入れてもらえると有り難いと思います。</p>
委員長	<p>高齢化した時に、歩いて生活ができるとか、散歩ができるとか、そういうことが重要になると思います。先ほど空き店舗活用の話がありましたが、それらをうまく活用して、お年寄りが集まれる場所ができると良いと思います。例えば、唐木田の大学のそばにコマダ珈琲ができたのですが、朝10時半頃に行くと、とても混んでいます。実は、お年寄り少し手前くらいの方々が、散歩した帰りに寄ってコーヒーを飲んでいるのです。身近にある、よく知っているお店ではなく、いろいろな方がいろいろなところから来ているので、ある種の匿名性があるようで良いようです。そのように、気持ちよく歩いて行くことができ、集えるような場所があれば良いと思います。</p> <p>前回、自転車についての意見が出ていましたが、「市民の意識」の中にも「自転車や歩行者の通行のための整備」と出ていて、アンケートにも問題として挙げられています。これについては、いかがでしょうか。</p>
D委員	<p>◆ 若者の流出を防ぐまちづくりについて</p> <p>交通に関して言うと、私は比較的規模が大きい市内の会社に勤めていますが、入社してくる若い人の交通に対する意識が変わってきていると感じています。彼らは車を持つことが当たり前ではなくなっているわけです。そういう人たちの意見を聞くと、小平市をあまり便利なまちとは感じていないよ</p>

	<p>うで、マンションや家を買う段になると、より西の方へ、あるいは少し北の方へと出てしまうので、残念に思っています。</p> <p>我々の会社は若い人を次々に採用していて、若い人材を一旦吸収しては吐き出しているのを間近に見てきましたが、彼らは決まったように「小平はとても良いところだが、土地が高い」「車を持たない我々にとっては、少し便利に欠ける」と言っています。ただ、教育面は非常に充実しているので「子どもをあの小学校に入れたい」「六小(市立小平第六小学校)に残したいが、泣く泣く出て行くしかない」というような話はよく聞きます。そういう面から考えると、人材を採ったからには放さないようにすれば、高齢化も防ぎつつ、活性化を図ることができるのではないかと思います。</p> <p>一方で、企業の規模は割と大きいのですが、協働に関して、企業の中から見ると、行政からの働きかけが我々にはあまり届いていないような印象を持ちます。地区の掃除などもしていますが、そういうことだけではなくて、グリーンロードにおける企業を活用したイベントや、ボランティア的な企業の活用等も、多分、会社としては乗り気になって取り組むだろうと思われるので、仕組みづくりや方向付けをすれば、動けるだけの良い地盤は揃っているのではないかといつも思っています。</p> <p>いずれにしても、基本的に、皆さんは「小平は田舎で、少し土地が安い」と言われていますが、我々にとってはそのような感覚ではありません。結構高いと感じています。私も小平に家を構えましたが、「よく小平に家を買ったね」と言われます。それほど小平は高いと見られています。そして、そのように高いと感じる人たちは地価の安い方へ転出していくので、そこを何とか防ぐまちづくりができれば、若い人が残ってくれるのではないかと思っています。</p>
委員長	<p>そうですね。若い方がせっかく小平に住んだのに、出て行かれるのはもったいないと思います。</p> <p>また、産学官の協働については、それほど企業に協働をお願いしていないのでしょうか。多摩市などは、我々が「大学は何もできません」と言っているにもかかわらず、いろいろな話に来て、とうとう我々のキャンパスの千代田区にいる先生まで引っ張り出される等、あらゆることに引っ張り出されています。小平市も、地域、大学、企業、その他いろいろな方に協力していただけるようにしていただければと思います。</p>
委員長	<p>●まとめ</p> <p>本日は、4つのテーマに視点を置きながら議論していただきました。後から「もっとあった」と思うことがあるかもしれませんが、本日のところはこの4つくらいが、話し合った中では共有できたのではないかと感じています。</p>

	<p>す。</p> <p>来年度は、このような形で、本日の話を基に今年度の内容のまとめをして いただいて、そこから議論を進めていきたいと思います。</p> <p>その他、何かご意見はございませんか。 (意見等、なし)</p>
委員長	<p>4. 今後の日程について</p> <p>それでは、今後の日程について説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料1「今後の日程について」をご覧ください。年度も迫っていますが、 今年度中に計画しているものがあります。3月24日、25日、27日に「まちづ くりサロン(仮称)」を開催します。これはPRパネル展という形で、このよう な場でいただいた意見や「まちづくりカフェ」での意見、あるいはアンケー トの結果等をパネルにして掲示します。「まちづくりカフェ」はアンケート に答えていただいた方のみを対象としていますが、不特定多数の方にいろ いろなご意見をいただく場として、このような場を設けました。パネルを見な がらご意見をいただいたり、また、簡単な説明と意見交換ができる時間を設 けたりできれば良いと考えています。場所は、24日は中央公民館1階ギャラ リー、25日は小川西町公民館1階、27日は東部市民センターで、3回とも午前 11時～午後3時までを予定しています。今年度の日程については以上です。</p>
委員長	<p>本日、アンケート調査の結果をいただいたので、後ほど、見ていただきた いと思います。それと同時に、本日はある程度の情報が共有できたと思うの で、気になる点やご意見があればメモ等をとっていただいて、次回の会議で 議論していただければと思います。</p> <p>どうも、ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>